

研究課題名	びまん性特発性骨増殖症における脊椎損傷の研究
研究期間	許可されてから平成30年3月30日まで
研究の意義と目的	脊椎(せぼね)が加齢とともに固くなることを“強直”といいます。多くは加齢とともに中高年以降に起こることが知られていますが、その原因はまだよくわかっておりません。びまん性特発性骨増殖症とは、この強直が多く発生して脊椎を含む全身の関節が固くなる病気です。多くの場合は体が固くなるなどの症状のみで、日常生活上困ることは少ないか、ほとんどありません。しかし、脊椎が固まり動きが無くなることで、転倒などのちょっとした外傷により脊椎の骨折をきたすことが知られています。いったん脊椎に骨折をきたすと麻痺が出現したり、骨折が徐々にずれてくることから治療が難渋することが知られていますが、いまだにこのような患者さんの報告が少ないためにその詳細は明らかではありません。本研究ではびまん性特発性骨増殖症における脊椎損傷の臨床像や治療成績を検討し、よりよい治療方針に役立てたいと考えております。
研究方法	本研究は後ろ向き観察研究です。2005年1月1日より2014年12月31日までに、当院に脊椎損傷で整形外科外来、または救急外来を受診された患者さんのうち、びまん性特発性骨増殖症と診断された方を抽出し、臨床的背景、脊髄損傷の程度、治療法、手術の場合、手術までの期間などのデータを集積し検討します。また、診断のために用いたCT、MRIの画像診断についての評価も行います。
研究機関	自治医科大学整形外科 慶應義塾大学医学部整形外科を中心とする多施設研究
個人情報の保護について	収集したデータは研究責任者が連結可能匿名化したうえで、研究に使用します。
結果の公表	本研究の結果は学会発表および論文としての報告を行う予定です。いずれの場合も被験者の個人情報は一切公表しません。
結果の開示	データの結果は研究の独創性の確保などに支障がない範囲で開示は可能です。
問い合わせ先	【研究責任者】 自治医科大学整形外科学 助教 遠藤 照顕 栃木県下野市薬師寺3311-1 電話 0285-58-7374 【苦情の窓口】 自治医科大学研究支援課 電話 0285-58-7550